

第4課 「幸いな者」

“¹ イエス・キリストの黙示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げられた。² ヨハネは、神のことはとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証した。³ この預言のことはを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。”(黙示録 1章1~3節)

本文3節でこの預言のことはを朗読する者は単数になっており、聞く者と守る者は複数になっています。これは、聖書が一般的ではなかった当時、会堂で聖書を読んでいる人は一人であり、聞く人は複数人だったということです。そして、書かれていることを守る者たちは幸いであると言っています。ここで幸いな者たちとは救われた神様の民のことを話します。これは私たちがみことばを成就させるために実践して行うという意味ではありません。'守る'と書いてあるギリシャ語 'テルンテス(τηροῦντες/teruntes)' は守るという意味とともに保護する、保存するという意味を持っています。そして、時制は'未完了受動態'になっています。未完了とは過去のある出来事で終わるのではなく、過去から繰り返して継続的に起こっていることを意味します。また受動態というのは私が主体になって能動的(積極的)にするのではなく、何かによってなされることを言います。すなわち私たちは三位一体の神様によって守られているということです。

テルンテスと同じ語源を使って書いたヨハネによる福音書17章を見ると、もっと理解ができるでしょう。

“わたしはもう世になくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。”(ヨハネ17:11)

“わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださる事です。”(ヨハネ17:15)

神様のみことばは、だれもが読んで聞いたとしても、みんなが悟るわけではありません。今、みことばを通してイエスがキリストであることを告白することができる私と皆さんは救われた神様の民であり、幸いな者なのです。